虚子記念文学館投句特選句・令和六年十一月

稲畑廣太郎　選

冬帝に能登の平和を委ねけり　兵庫　惠島祥一朗

遥々と来し虚子記念館小春　新潟　安原　葉

尽しゆくいのちの色として紅葉　神奈川　進藤剛至

冬日和虚子の金庫の奥にまで　兵庫　藤井啓子

星空の育む初霜のあはひ　兵庫　中村恵美

冬蝶の翅休めたる座禅石　兵庫　吉村玲子

解体も上棟もあり能登しぐれ　石川　白根寿子

木道の二分したるや大花野　奈良　堀ノ内和夫

落葉積み重ねて秘密基地隠す　兵庫　入谷千惠子

算数の宿題夜は暗い冬　滋賀　太田　慈

（青少年）

入選句・令和六年十一月

白塗りの天守四層や空高し　埼玉　小田毬藻
裏道に金木犀の香の澱む　京都　山﨑貴子
六甲の裏より表へ進む秋　兵庫　涌羅由美
賑はひの館の顔触れ文化の日　兵庫　奥田好子
風遊び冬めく空の憂ひかな　兵庫　河野ひろみ
初霜や人恋しくて恋しくて　徳島　奥村　里
初霜や宅配牛乳瓶の冷え　大阪　西尾浩子
初霜の始発列車の行きにけり　京都　木村直子
大原野畑焼く煙秋の暮　兵庫　入谷千惠子
うらがれてゐても七色館の庭　石川　辰巳葉流
マルビルの跡地に固き冬日和　兵庫　辻　桂湖
七五三初めて紅を薄く引き　兵庫　槌橋眞美
文化の日虚子に学びし事多く　大阪　林　曜子
行秋や昭和百年振り返る　兵庫　永沢達明
柚子搾る柚子の円さをいとほしみ　兵庫　岸川佐江
釣竿に撓りは見えず波止小春　兵庫　池田雅かず
小春日の空に祈りの鐘一打　兵庫　深尾真理子
流れゆく雲に乗りたき冬日和　鳥取　前田　千
晩秋の風かをり立つひとり旅　三重　水越晴子
特攻の文や菊の香肺腑衝く　東京　木村三球
俳磚の千句に学ぶ文化の日　京都　西村やすし
佳きことを重ね重ねて暮の秋　大阪　河辺さち子
句を学び極楽極楽文化の日　大阪　須知香代子
風とゆく山茶花散りてゆく性よ　兵庫　足立朱麻

ひかり脱ぐ冬蝶神のまほろばに　京都　杉森大介
銀杏や朝出遅れて二つのみ　愛知　海神瑠珂
亀石のまこと眠たき小春かな　大阪　若林友子
流鏑馬の一矢取り出す手際かな　東京　小室和子
冬日和子の喚声を聞く窓辺　鳥取　椋　則子
小春日や虚子のふところてふお庭　鳥取　椋　誠一朗
箸すすむ茎漬の色褪せぬ間に　兵庫　二瓶美奈子
新調のレースカーテン冬日燦　兵庫　西村みどり
茎漬の一と夜重しの水上がる　大阪　田邉育子
二上山の雲入れ替わる今朝の冬　大阪　椋本望生
寒烏ちひさく鋭く嗚呼と鳴き　奈良　豚々舎休庵
ひとときは染まってゐたい冬紅葉　兵庫　玉手のり子
茶の花の恥づかしさうに咲きにけり　兵庫　高橋純子
話されし思ひ出の木の落葉かな　兵庫　辻田あづき
流れ星海に散らばる感嘆符　静岡　いたまき芯
川の瀬や大根洗ふ長き影　兵庫　福田光博
冬来る石這ひ上がる亀の爪　兵庫　高市敦之
岬鼻に凌駕の舞や鷹柱　愛知　小野　薫
寺町に窈窕の比丘一葉忌　滋賀　近江菫花
信楽の狸生家の冬構　愛媛　星月彩也華
大綿の舞ひ来る日差やはらかに　石川　辰巳昌彦
雪便り旅人坂を下りきる　兵庫　風待ラテ
新聞は古新聞に冬ざるる　熊本　貴田雄介
オリオンに図書室星の海となる　滋賀　太田怒忘
六甲の神も気まぐれ片しぐれ　兵庫　伊集院秀樹

鯛焼きの一尾を喰ふやダイエット　東京　木村三球

落葉舞ふ役目終へたる軽さかな　兵庫　山口弘子

ふんわりと布団掛けるが如落葉　兵庫　長谷川敬子

留守三日落葉の門となりにけり　兵庫　三木雅子

吹き寄せて落葉の坂は風の道　兵庫　川村ひろみ

六甲の風明けて落葉街神戸　兵庫　金田八江子

落葉籠小さきズックの紛れをり　兵庫　西尾登志子

妖精があやつるが如落葉舞ふ　兵庫　道中義臣

朝散歩踵を返す星の入り東風　神奈川　斉藤苑子

凩の堀割に舟繋ぎ合ひ　和歌山　中島紀生

舞い降りし那覇の空港初時雨　神奈川　小林　心

初雪や屋根のみ白き湯屋の朝　神奈川　平野孤舟

柿落葉極みの紅を栞とす　兵庫　北井真有美

時化つづく草履編む祖母囲炉裏端　石川　伊東弥太郎

炉開や西陣の帯並びたる　兵庫　キートスばんじょうし

単三の二本で光る聖樹かな　兵庫　太平楽太郎

芦屋川小春の風に誘はれて　兵庫　阿曽宏之

ずわい蟹十指に染むや日本海　神奈川　金子三奈乃

透明なテープにくくる年の暮　東京　桜鯛みわ